

響きあうアジア 2019 インドネシア映画監督と日本のサウンドデザイナーがコラボレーション 「サイレント映画 + 立体音響コンサート」初公演

国際交流基金アジアセンターは、日本と東南アジアの文化交流事業を幅広く紹介する祭典「響きあうアジア 2019」の一環として、2019年7月2日（火）に『サタンジャワ』サイレント映画+立体音響コンサートを実施します。インドネシアの映画監督ガリン・ヌグロホ氏によるサイレント映画と、気鋭のサウンドデザイナー・森永泰弘氏の音楽・音響デザインを融合させた作品です。

『サタンジャワ』とは、ヌグロホ監督による「エクспанデッド・シネマ（拡張映画）」のコンセプトの元、生演奏付きで上映するために作られたサイレント映画です。2017年2月のオーストラリア・メルボルンでの海外初公演を皮切りに、シンガポール、アムステルダム、ベルリンといった世界各都市で、その地の楽団とのコラボレーションによる公演を成功させてきました。いよいよこの夏、この日本公演のために全編新しく制作された音楽・音響と融合させ、森永泰弘氏と、「水曜日のカンパネラ」として個性的かつ実験的な音楽活動を展開するコムアイ氏との共演により、立体音響コンサート版を初披露します。

また、この公演に合わせヌグロホ監督が来日する運びとなりました。つきましては、貴媒体におきましてご取材・ご掲載を賜りたく、ご案内申し上げます。



Photo by Erik Wirasakti



Photo by Erik Wirasakti

記

事業名称：『サタンジャワ』サイレント映画+立体音響コンサート

主催：独立行政法人国際交流基金アジアセンター

来日日程：2019年7月1日（月）～2019年7月5日（金）（予定）

7月1日（月）ゲネプロ

7月2日（火）『サタンジャワ』公演

14:00 開演 / 19:00 開演（2回公演、各回30分前開場）

※個別取材をご希望の際は日程調整いたしますので、広報担当までご連絡ください。

会場：有楽町朝日ホール

共催：公益財団法人ユニジャパン

後援：駐日インドネシア大使館

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



KUMAKURA

高い期待が早くも来る！
体験となるでしょう。
多くの日本人に待望の日本公演。
多くの人にと
って未知なる
体験となるで
しょう。



取材のお願い

主な内容： 本公演では、映画と音と声国境や文化を超えてひとつになり、7月2日、会場において初めて完成します。サイレント映画に音楽を付けるという演出が、ライブであるというだけでなく、立体音響となり、映画のストーリー、そして台詞へと姿を変えます。観客は映像と音響と声に包まれた空間に五感をゆだねて初めて「鑑賞」することになります。芸術的なモノクロのサイレント映像は、立体的にデザインされた音響で、神秘的な彩りを持ち語り出します。インドネシア映画界を牽引するガリン・ヌグロホ監督、さまざまなアーティストと音響世界をデザインしてきた森永泰弘氏、「水曜日のカンパネラ」として個性的で実験的な音楽活動を行っているコムアイ氏が、映画と音響と声による一日限りの饗宴で、未体験のアート空間を創り上げます。

ヌグロホ監督は、社会問題、歴史上のタブー、各地の土着的な文化・慣習などを幅広く取り上げ、常にインドネシア映画界の第一線を走り続けています。舞踊劇、美術、音楽などあらゆる芸術に触手を伸ばすマルチタレントぶりも発揮し、「東京国際映画祭」の常連でもあります。経歴については、後頁のプロフィールをご高覧ください。

上映作品：『サタンジャワ』SETAN JAWA／2016年／70分／モノクロ／サイレント

監督：ガリン・ヌグロホ

音楽・音響デザイン：森永泰弘

舞台出演：コムアイ（水曜日のカンパネラ）、日本・インドネシア特別編成音楽アンサンブルほか

会場：有楽町朝日ホール

音楽・音響製作：concrete

制作：(株)オカムラ&カンパニー



映画『サタンジャワ』

映画製作：Garin Nugroho Workshop, Turning World

共同製作：AsiaTOPA - Arts Center Melbourne, Melbourne Symphony Orchestra, Esplanade Theatres on the Bay, Singapore



以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■プロフィール

監督：ガリン・ヌグロホ Garin Nugroho

1961年、インドネシア、ジョグジャカルタ生まれ。90年代インドネシア映画新世代のパイオニアとしてその名が知られる。監督作はカンヌ、ヴェネチア、ベルリンをはじめとする数多くの映画祭で上映され、多数の映画賞に輝いた。映画評論家、ドキュメンタリー監督として映画業界に入りインドネシアの社会問題、文化、政治をテーマに選んできた。映画以外にも演劇や美術インスタレーションも手がけるほか、2005年にはジョグジャ NETPAC アジアン映画祭を創設した。最新作『Memories of My Body』は2018年ヴェネチア映画祭でプレミア上映された。



© 佐藤基

音楽・音響デザイン：森永泰弘 Yasuhiro Morinaga

東京藝術大学大学院を経て渡仏。帰国後は芸術・音楽人類学的な視座から世界各地をフィールドワークし、楽器や歌の初源、儀礼や祭祀のサウンドスケープ、都市や集落の環境音をフィールドレコーディングして音源や作品を発表している。また、映画・舞台芸術・展示作品等のサウンドデザインや音楽ディレクションを中心に、企業やアーティストとコラボレーションを行う concrete を設立し、国内外で活動している。これまで世界三大映画祭（カンヌ国際映画祭、ヴェネチア国際映画祭、ベルリン国際映画祭）で自身が関わった作品等が発表されている。

www.the-concrete.org



© Takashi Arai

舞台出演：コムアイ KOM_I

アーティスト。1992年生まれ、神奈川育ち。ホームパーティで勧誘を受け歌い始める。「水曜日のカンパネラ」のボーカルとして、国内だけでなく世界中のフェスに出演、ツアーを廻る。その土地や人々と呼応して創り上げるライブパフォーマンスは必見。好きな音楽は民族音楽とテクノ。好きな食べ物は南インド料理と果物味のガム。音楽活動の他にも、モデルや役者など様々なジャンルで活躍。2019年4月3日、屋久島とのコラボレーションをもとに制作した新 EP 「YAKUSHIMA TREASURE」をリリース。

<http://www.wed-camp.com>



■メッセージ

『サタンジャワ』——ヌグロホ芸術の集大成にして新たなチャレンジ**石坂健治（日本映画大学教授／東京国際映画祭プログラミングディレクター）**

映画監督のなかにはジャンルを横断・越境して創作するタイプのアーティストたちが存在する。アジアに限れば、アピチャッポン・ウィーラセタクン、キドラット・タヒミック、ツイ・ミンリヤンらは、映画と美術・演劇といった隣接分野を自在に往還して作品を生み出す。最近のアピチャッポンなら劇場空間と光を使った『フィーバー・ルーム』が印象に残る。

インドネシア映画界を牽引するガリン・ヌグロホもそうした系譜に連なる一人だ。1961年ジョグジャカルタ生まれのヌグロホは、東京国際映画祭に10回を超える入選を果たし、ストリート・チルドレンを描いた『枕の上の葉』(98)が劇場公開されるなど、日本との縁が深い作家である。スハルト独裁体制とその終焉後のインドネシア社会を見据える一方、早くからジャンル横断的な表現を得意としてきた。新婚夫婦の諍いと融和を綴ったデビュー作『一切れのパンの愛』(91)や、伝統舞踊の師匠と弟子の禁断の恋に踏み込んだ『そして月も踊る』(95)では、演劇的に様式化された演技やセリフ回し、詩の朗読や踊りが劇中に組み込まれたが、やがて全篇“ガムラン・オペラ”といった趣の大作『オペラジャワ』(06)へと発展し、近作『めくるめく愛の詩』(15)には1970年代の流行歌がダンスを伴って効果的に挿入され、清々しい歌謡映画となっている。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



2016年の初演以来、豪州や欧州での公演に続いていよいよ日本上陸の『サタンジャワ』は、軽やかにジャンルを越境するヌグロホ芸術の集大成にして新たなチャレンジともいえる注目作だ。ジャワ島の神話世界を描くモノクロ・サイレントの映像をベースに、上映＝上演される国のクリエイターとタッグを組み、そのつど一期一会の劇伴を生演奏と音響設計で作りあげるといった画期的なコンセプトの本作は、映像とサウンドが積算され、圧倒的な迫力で劇場全体を包み込むだろう。気鋭のサウンドデザイナー・森永泰弘が創り上げる音響空間にも期待が高まる。

魂の宿る映像へ

ガリン・ヌグロホ（映画監督）

『サタンジャワ』は、私にとって初めてのサイレント映画であり、2つの事柄から着想を得ています。1つは、インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリ。通常ガムラン演奏とともに上演されるもので、あたかも無声映画にガムラン・オーケストラの生演奏がついているようにも見えます。2つ目は、ドイツ表現主義の巨匠 F・W・ムルナウ監督の『吸血鬼ノスフェラトゥ』（1922）です。

サイレントは、想像が無限に広がるものであり、禅に通じるとも感じます。極めてシンプルなモノクロの世界は、私たちの想像力を働かせ、色を織り成していきます。また、私たちにとって音楽は魂です。音楽は物語であり、人々の感情を語り、想像力を与えてくれます。サイレントであり、モノクロであり、そして生演奏付きであること、これらは私が長年取り組んでいる「エクспанデッド・シネマ（拡張映画）」において大切な意味をもつのです。

「繋がり」の音 ―― 儀式の音へ

森永泰弘（サウンドデザイナー・サウンドアーティスト）

『サタンジャワ』はジャワ島に根付く神秘主義を軸に男女、男とサタン、女とサタンの恋愛関係を描いた作品である。映画が音と映像、スクリーンとスピーカー、登場人物と観客を繋げていくように、モノクロームで撮られた本作は、人間、動物、オブジェクトが重層的に繋がりあっている。これらの繋がりをまとめあげる唯一の時空間が、儀式だと僕は考えている。

この唯一の時空間から生成される音―儀式の音―が、本作『サタンジャワ』で試みるサウンドデザインのコンセプトにある。

ガリン・ヌグロホとは長年の友人関係であり、彼が長年耕したフィールドの地に僕は幾度も足を運び、現地の音楽家やアーティストとの交流を支えてくれたのもヌグロホであった。『サタンジャワ』のサウンド版の制作では、僕自身が見て聴いたインドネシアの音をそのまま再現するのではなく、これまでの記録・制作活動を通じて、群島国家の日本とインドネシアの異文化の繋がりを「現代」の視点から問い直すアプローチもできればと考えている。

ジャワ島に根付く音楽、神話、舞踊も、長い歴史の中で変化し、違う島に渡りながら新しい伝統として誕生してきた。本公演ではジャワに固有することなく、その周縁文化の音が映画を通じて繋がりあう瞬間を各々の視点で体験してもらいたい。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



■「響きあうアジア 2019」について



「響きあうアジア 2019」は、設立 5 年を迎える国際交流基金アジアセンターが、日本と東南アジアの文化交流事業を幅広く紹介する祭典で、主に 2019 年 6 月から 7 月にかけて開催する。国を超え共に創り上げた舞台芸術や映画から、東南アジア選手による混成サッカーチーム「ASIAN ELEVEN」と日本チームとの国際親善試合、“日本語パートナーズ”のシンポジウムまで、お互いの文化が刺激しあって生まれたイベントで構成される。国際交流基金アジアセンターがこれまで 5 年にわたり行ってきた相互交流の成果を振り返るとともに、日本と東南アジアとの関係をさらに深めるための起点となることが期待される。なお、「響きあうアジア 2019」は、同年に東南アジアでも展開予定。

公式サイト：<https://asia2019.jfac.jp>

関連企画

響きあうアジア 2019 東南アジア映画の巨匠たち

7月3日(水) シンポジウム (東京芸術劇場ギャラリー1)

7月4日(木)～10日(水) 映画上映 (有楽町スバル座)

『サタンジャワ』のガリン・ヌグロホ監督をはじめ、東南アジア映画界を牽引し、世界的に活躍する巨匠が一同に会する貴重な特集上映&シンポジウムを実施。

上映作品、スケジュール、チケット情報等詳細は 2019 年 5 月下旬頃「響きあうアジア 2019」公式サイトにて発表。



この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp